

山梨ライトハウス

第89号

発行/社会福祉法人 山梨ライトハウス 〒400-0064 甲府市下飯田2-10-1

TEL/055-222-3502 FAX/055-233-0124 URL <http://yamanashi-lighthouse.or.jp/>



情報文化センター 電話/055-222-3502
貸出・用具専用/055-223-1113
青い鳥ホーム 電話/055-252-8994
青い鳥成人寮 電話/055-224-5060
青い鳥支援センター 電話/055-267-7480
青い鳥老人ホーム 電話/0553-26-6631
青い鳥ケアホーム 電話/055-235-5566



山梨ライトハウスの理念は
「視覚障害者の未来を照らす
光の道標となること」です。

CONTENTS

巻頭言	1	・青い鳥老人ホーム	5
白い杖愛護運動月間	2~3	・青い鳥ケアホーム、青い鳥支援センター	6
コロナ禍での各施設行事		・青い鳥成人寮	7
・情報文化センター	4~5	お知らせ	8

私と青い鳥成人寮・山梨ライトハウス

山梨ライトハウス法人事務局長

(兼青い鳥成人寮施設長)

安藤 輝雄

青い鳥成人寮の東の道路を隔てた所に、曲線を使ったデザインと屋根の青色の色彩が特徴の小洒落た建物、紙工作業棟があります。

実はこの紙工作業棟、私にとっても思い出深い建物です。

私は県庁生活三十七年間のうち、三十歳代の終わりから五十歳にかけて、通算十年間、予算編成などを行う財政課という部署に勤務しました。量的にも質的にも中身の濃い十年間でした。その財政課に最初に配属されたのが平成五年四月で、当時はバブル崩壊後の経済対策で山梨県でも公共事業等が盛んに行われていました。配属後間もないその年の六月の補正予算に、経済対策として私の担当する厚生部関係で唯一、紙工作業棟の建設費を計上することになりました。新米の私は当然のことながら悪戦苦闘しましたが、その後の財政課生活の出発点となり礎となったのがこの紙工作業棟なのです。

それから二十七年後、縁あって本年一月、青い鳥成人寮に勤務させていただくことになりました。事務室の中にいるだけでは利用者のことも職員のことともよく分からないので、利用者の個別支援計画のモニタリングに参加させてもらうことにしました。モニタリン

グでは、支援計画の実施状況を把握・分析した上で、今後利用者に対してどのような支援が望ましいかを真剣に考え議論する姿に接し、心を打たれると同時に、三年前に亡くなった兄のことを思い浮かべました。

私の兄は、甲斐市にある障害者支援施設に入所していました。そこでは、施設長さんをはじめ職員の方々に、持っている能力を最大限生かせるようきめ細かな支援をしていただき、兄は様々なことにチャレンジすることができました。

私たち家族は、そのことに対して深く感謝しておりましたし、私も、夏祭りなどの様々な行事や保護者会の活動



平成6年に完成した青い鳥成人寮紙工作業棟

などへの参加を通してその施設に愛着を感じていました。

こうしたこともあり、障害者支援施設である青い鳥成人寮・山梨ライトハウスに人生最後の仕事の機会を与えていただいたことは、私にとって運命的ともいえる縁だと思っています。

山梨ライトハウスは、昭和二十八年十月二十日にその産声をあげた明確な基本理念を持つ歴史と伝統のある法人です。奇しくも同じ日に生まれた私は、いわゆる「よそ者」として、少しでも法人の発展に貢献できるよう努力したいと考えています。



お楽しみ抽選会(青い鳥成人寮福祉祭)

第66回白い杖愛護運動月間 令和2年11月1日～30日

白い杖福祉の集い

第66回白い杖愛護運動（山梨県・山梨県教育委員会・山梨ライトハウス主催）が11月に行われました。

毎年甲府駅などで行っていましたが、新型コロナウイルス感染予防のため中止になりましたが、1日に、山梨県立盲学校体育館で「白い杖福祉の集い」を感染予防対策を講じ規模を縮小して開催しました。式典では、点訳・音訳奉仕者知事表彰、白い杖愛護作文や生活体験文受賞者の表彰を行いました。



山梨県障害福祉課長あいさつ



知事表彰受賞者



知事表彰受賞者のことば



愛護作文(小学校低学年の部)最優秀賞受賞者



愛護作文(中学校の部)最優秀賞受賞者



愛護作文(高等学校の部)最優秀賞受賞者



生活体験文(児童・生徒の部)最優秀賞受賞者



生活体験文(一般の部)最優秀賞受賞者



愛護作文の講評



生活体験文の講評



受付に設けられた消毒



趣意書

白い杖愛護作文・生活体験文合わせて353編の応募がありました。今年度は、体験や知識を踏まえて、視覚障害に関する知識や自分の思いなどをこれからの人生の中でどう生かしていくかについて書かれた作品が多く、共生社会がますます広がっていくことを期待します。

伝えたい、伝えてほしい

〔児童生徒の部〕 山梨県立盲学校 中学部三年 山宮 叶子

新型コロナウイルスの感染拡大により、知事会見が開かれる機会が増えた。五月には、全ての都道府県で手話通訳が導入された。聴覚に障害のある人たちが声を上げたことで、実現したそうだ。私も視覚障害者の一人として、多くの人に知ってほしいことがある。

先日、姉とテレビを見ていた時のことだ。突然大きな音が鳴った。「緊急地震速報です。強い揺れに警戒してください。」心臓の音が速くなる。揺れるかもしれない。避難訓練の成果で、体はすぐに動いた。私は机の下に入った。でも、姉は落ち着いていて、テレビ画面に集中しているようだった。「机、入らないの」。震える声で聞くと、「地震、茨城だって」と言った。速報と同時に字幕で場所が伝えられたそうだ。速報の後、時間が経てば緊急中継に切り替わり、音声でも情報を得ることができているが、災害時にはすぐに避難が必要な場合もある。視覚障害者の私と、健常者の姉との間の、大きな情報格差を実感した。

とはいえ、平常時には、視覚に障害があっても、情報の格差を感じることはほとんどない。テレビやラジオ、新聞、インターネットなどのメディアや、パソコン スマートフォンのアプリ等の、技術革新や企業努力のおかげだ。ラジオでは、海外ニュースを伝える時、外国語にかぶせて翻訳された日本語音声流れるので、とても分かりやすい。パソコンやスマホの音声読み上げ機能などを利用して、ニュースサイトの記事もよく読んでいる。

しかし、緊急時の情報の即時性となるとどうだろう。例えば、大雨の時だ。危険区域に、危険度別に「避難準備」「避難指示」等が発令される。テレビでは色分けされた地図画像や文字ニュースが映るが、私には見えない。ラジオを含め音声情報は大部分が地名の羅列だ。自分の居住地名が聞き取れても、危険度情報はずっと前に伝えられたきりだ。途切れた情報の意味や全体像の把握にとても時間がかかってしまう。数地域ごとに一言、情報の見出しが入るだけで伝わりやすくなるのに。字幕の音声化でもいい。命に関わる緊急時の情報こそ、格差なく全員に同じ情報を同じ時間に伝えてほしい。情報が入らないことは恐怖だ。

災害時でなくても、想定外の状況下では情報量の差が生じることもあるだろう。通行中、近くで事故が起こったとする。私は状況が把握できず、次の行動も取れず立ち尽くしてしまっただろう。でもこれは視覚障害者だけのことでなく、遠くで音を聞いて駆けつけた人や、高齢者や小さな子供なども同じではないだろうか。状況が把握しにくくて困ってしまう時、少しでも声をかければ安心する。情報のシェアや、視覚 聴覚情報の説明は、多くの人の安心や落ち着きや正しい行動につながるはずだ。一人ひとりの行動で、情報格差のない社会を実現できると良いと思う。

指先で視る希望の光

〔一般の部〕 身延町 平田 政夫

まさか自分が点字をやるなんて思ってもみなかった。

視覚に障害がある人が情報を得る手段として必要なのは、五感のうち聴覚と触覚である。今は昔と違い、目の見えない人でも音声による最新機器で情報を得ることが出来る。

また、触覚により物の大きさや形を判断することになるが、最近はいろいろな物に点字が埋め込まれている。でも私は点字が読めない。以前から点字には興味があったが、あの小さな突起にどのような仕掛けがあるのかとても不思議な物に感じられた。しかし、反面では「中途失明者では無理だ」とも聞いていた。ましてや六十五才という年齢と、普段野良仕事などで指先が敏感であるはずがない。

でも、点字が読めればもつと日常生活が変わるのではないかの思いから点字を始めようかと決心し、そして山梨ライトハウスに「二年前の平成三十年十二月から通い始めた。初日にはどんな先生が来るか不安があったが、担当者から「A先生で、平田さんとは相性が合いそうな女性の先生を選んでおきました」と言われ少し安心した。想像していた通りの美人（後で聞いたが、元スチュワードスと言うので勝手に想像）で優しそうだった。点字は約二百年前にフランス人によって考案され、百三十年位前に日本にも普及したと聞かされ、とても驚いた。わずか六つの組み合わせにより六三通りの文字などが表現されるというので、さらにびびくりすると同時にすごい物考えたものだと思心させられた。左手の人差し指で触読するという。いろいろな決まり事があり、初日から自分ができるような事を覚え、実際に読む事ができるかどうか早くも心配になってきた。

A先生が私の不安を見抜いたのか、「少しやってみて無理そうならばやめても良い」と言ってきたが、私にも意地があり「途中でやめるくらいならば初めから点字をやるとは言わない」ときっぱりと言った。

それから一回一時間三十分で、月二回ペースで講習を受けている。指先に全神経を集中させての授業はとてもきついですが、一回でなんとかテキストの1ページをこなしています。

今年に入り、新型コロナウイルスの関係で三月から四ヶ月中断した。中断中には今まで覚えた事を生かし、木製の「点字ネームプレート」を考えだした。これは櫛に、装飾用の頭の丸い釘を打込み名前を書くもので、オリジナルのキーホルダーです。妻と娘の協力を得て試行錯誤して試作品を二十個程作りました。

点字を覚えた事で今まで見えなかった物が見えた感じで、心が豊かになると同時に、明日への希望が湧いてきました。これからも点字の他にも新たな挑戦をし、楽しく、悔いのない人生を送る努力をしたい。

音声版「選挙のお知らせ」製作オンライン研修会へ参加して

今年度は、終息しない新型コロナウイルスウィルス感染症のために、様々な行事やイベントが中止や延期となっています。私たちは、例年県外で開催される研修会へ出席させていただく機会があるのですが、これも相次いで中止されました。

そんな中、日本盲人福祉施設協議会情報サービス部会主催の



研修の様子

音声版「選挙のお知らせ」製作オンライン研修会が開催されました。この研修会は、毎年五月に都内で開催されているのですが、今年度は、去る八月十九日にオンラインで五十九施設が二日間に分かれての研修となりました。

事前に、PCへオンラインミーティング用ソフトをダウンロードし、カメラやマイク、スピーカーなどを揃えました。研修会二週間前には、接続テストが行われ、ビデオ画面の変更や音量の調整、ミュートの解除などの簡単な操作の確認がありました。

迎えた研修会当日、ソフトのアップデート指示が直前にあり、あわてながらも研修に臨むことができました。

研修では、これからの選挙に備え、昨年の参院選での反省点をもとに、音声版「選挙のお知らせ」を正確にまた期限内に視覚障害の有権者へお届けすることを第一に、製作・作業の流れについて説明を受けました。

ネット環境の違いによる聞き取りにくさなど改善点もありましたが、無事初めてのオンライン研修を終えることができました。

これからの選挙へ向け、万全の態勢で利用者の皆様に選挙情報をお届けできるよう研鑽を積んでいきたいと思えます。

「目が見えないってどんなこと？」

十一月一日に赤い羽根共同募金の配分を受け、視覚障害や盲導犬についての講話を小学校高学年の児童とその保護者を対象に、開催しました。当日は、日本盲導犬協会のスタッフからの説明と盲導犬PR犬によるデモンストラーションが行われ、目が不自由な方や盲導犬ユーザーに出会った際の声のかけ方、注意点について熱心に聞いていました。



障害物の間を誘導する盲導犬



視野狭窄の体験

この講話をとおして、目が見えないということを考え、理解していただけたいと思います。



階段での誘導の様子



角であることを止まってユーザーに伝える盲導犬



視覚障害者用具の展示

情報文化センターでは、視覚障害の皆さん向けの便利グッズを展示しています。正面玄関入ってすぐ右側の壁面には、日常生活用具・補装具（盲人安全つえ）・生活便利グッズなどを紹介するコーナーがあります。

このコーナーでは、日本点字図書館からの長期貸与品を含め、数多くの用具を皆さんに紹介しています。現在展示されているのは、約三十種類。

デジリーCDを聴くために必要な「プレクストーク」、画面に文字を大きく映す携帯型拡大読書器「クローバー4」、ボタンを押せば時間を音声で教えてくれる置時計「トークライナー」、凸線の目盛り付き計量カップ、ロービジョンの方向け文具で文字をまっすぐ書くためのプラスチックシート「スミ字ガイドセット」、音声で数値を教える料理用デジタル秤や音声血圧計など。読書支援機器をはじめ、家事に関するものまで生活を支える様々な用具を展示しています。

ご来館の際には、是非ご覧になつてください。



展示コーナー



プレクストークや拡大読書器

●青い鳥老人ホーム●

敬老お祝い会

九月十六日、老人ホームでは敬老お祝い会が開かれました。敬老お祝い会は利用者が楽しみにしている行事の一つで、新人職員にとっても自分の芸を披露する登竜門です。

九月に入ると新人職員は、「楽しみにしているよ」「去年歌って



施設長の歌声にうっとり



恒例のハンドベル演奏 年々上達しています

ないから今年は歌うんでしょ」と声をかけられます。

今年の二人の新人は、利用者だけでなく職員全員、そして本人たちも楽しむべく、輝くばかりの衣装でピンクレディーになりきり『UFO』を振り付け完コピで歌いました。湧き上がる歓声、衣装の説明を聞くところから「触ってみたい」という声が聞かれ、歌の後は衣装のお披露目。利用者も興奮しどんなものかと触りながら大いに喜んでいました。ド派手なステージの次は、てっぱんになりつつある職員によるハンドベルです。ピアノの伴奏に合わせて、真剣にベルを鳴らしました。完成度の高い演奏、きれいな音色に利用者からは大きな拍手をいただきました。演奏後は、間違えた職員の自己申告タイムとなりました。

そしてトリは、施設長によるギター演奏です。利用者の好みを熟知した選曲に、自然とみなさん口ずさんでいました。最後に敬老お祝い会として用意した曲は、施設長自ら作詞・作曲をした「青い鳥の歌」。その歌詞と音楽に耳を澄ませ、聞き終わると拍手喝采でした。

大きな笑い声、手拍子：短い時間でしたがおおいに楽しんでいました。「またやって欲しい」「次はAKBを踊ってよ」など、リクエストも聞かれました。

利用者の喜ぶ顔を楽しみに、職員は次の行事に向かってエンジン全開、走りだしています。



●青い鳥ケアホーム●

自分らしく生きるケアホームでの生活 五年間

平成二十八年六月一日、第二ケアホームが開設となりました。開設と同時に入居されたKさんの話をお伝えしたいと思います。Kさんの故郷は市川三郷町。生まれつき弱視であり、中学三年から高校三年の四年間、盲学校の寮に入りマッサージの勉強を行いました。手に技術をつけ四十三年間、湯村温泉郷で生計を立てていましたが、体調を崩し生まれ故郷に戻り、妹家族との生活となりました。しばらくして妹家族に迷惑をかけているのではないかと不安を感じ、自立し新たな生活を夢見て行政に相談したところ、青い鳥ケアホームの第二棟が近いうちに完成するとの情報を得て、建設中のホームの見学に行きました。既に定員五人中、四人の入居者は決まっていました。見学してすぐに建物、サービスク内容等が気に入り、ケアホームでの生活を強く抱くようになりました。願いが叶い、今また、学生生活を過ごした懐かしいの下飯田の地で生活をしています。

Kさんは他の人達との生活で仲良くできるか不安でいっぱいでしたが、入居初日、他の四人の顔を見た瞬間であり、皆の顔を見て安心した



表彰会場にて

ことを今でもよく覚えているそうです。「五年が過ぎ、様々な人達が関わり、私が私らしく生活しやすいようにサポートしてくれる。ここでの生活は楽しく、自分のペースで生活ができ、気が楽であり笑いの絶えない生活ができています」「これからもここでの生活を続けていきたい。そのためにはいつまでも健康でいて、自分の身の回りのことは自分で出来るように頑張っていきたい」とご本人は笑いながら話してくれました。現在は成人寮で紙工班での作業、点字と歩行の訓練に取り組み、今回、白杖愛護作文に応募し、「白杖さん、ありがとう」と題して優秀賞を頂きました。

何事も前向きに自分らしく生活されているKさん。彼女の周りにはいつも笑い声が聞こえてきます。そんな彼女の姿に励まされ、私達職員一同は心癒されています。感謝し日々仕事に取り組んでいます。

●青い鳥支援センター●

「皮細工キーホルダー作り」に挑戦しました

今年二月の「味噌作り」を最後に、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、行事を控えていました。あつという間に夏が過ぎ、「このまま利用者に会えないのかな」と寂しく感じ、スタッフで行事の内容と感染症予防対策を話し合い、人数制限を行った上で、今年度初の行事として「皮細工キーホルダー作り」を行いました。

細かな作業でしたが、みんな集中して、人ひとり考えて色付けし、光沢が出るまで磨き上げ、イニシャルも掘って個性あふれるとても素敵な作品になりました。工作自体も楽しい時間でしたが、久しぶりに利用者同士が再会し、嬉しくて笑顔が絶えないひと時になりました。

今回は、クリスマスに向けて「ランプシェード」を作りたいと思います。支援センターは、やはりみんなの笑顔と賑やかな雰囲気が似合います。これからの時期は、さらに感染症予防対策に力を入れて活動をして行きたいと思えます。



色とりどりのキーホルダー



1人で打てるようになりました



文字打ちに挑戦



説明を真剣に聞きます

納涼祭

八月十二日、今年は成人寮利用者のみの開催となりました。利用者には甚平や浴衣に着替え準備万端、雰囲気は 気にお祭りモードです。お天気は始まる前に下り坂になりました。急遽ホールでの開催となりました。例年とは違い、屋台巡りを楽しむことはできませんでしたが、順番に 人ひとりがゲームに参加し、それを皆で応援することができて、会場はとても温かな空気に包まれ笑顔が絶えない時間を過ごすことができました。そして、毎回恒例の職員のバンド「Blue Bird Big Band通称BBB」による演奏会。本当は中庭で行う予定でしたが、ホールでの実施となったので、近くで生の演奏を聴くことができておおいに盛り上がりました。

福祉祭

十一月十一日、開会式後、お餅つきから福祉祭が始まりました。上手についた後は、男性・女性の各一名が、練習した歌と民話を披露し、皆さんから盛大な拍手を受けました。その後は職員同士のあっち向いてホイや片足立ち対決などを見てどちらが勝つか予想し、応援とともに笑みがこぼれました。

午後は、男性と女性がソーシャルダンスを保ちつつ、クイズと牛乳パックで作ったサイコロを投げて出た目の大きい方が勝ちというゲームをしました。福祉祭の最後は抽選会です。自分の名前が呼ばれ、景品を受け取りました。「中身は何かな?」「まだ呼ばれていないよ!」と秋風の吹く中、たくさん笑顔の花が咲きました。



答えがわかったよ

出た目が大きい方が勝ち



皆で記念写真

当たるかな



お餅早く食べたいな



紐を引っ張ると...

浴衣美人さん

スピーチロックの施設内研修

十月十四日、虐待防止委員会の主催で、言葉や態度で対象者の身体的・精神的な行動を抑制するスピーチロックの施設内研修を行いました。講師は、スピーチロックについての発表が県老協の研究総会で関東大会出場という評価を受けた、青い鳥老人ホームの関口さんにお願いました。言葉の言い換え方や丁寧な言葉遣いなどについて、老人ホームでの具体的事例を交えながら説明を受けた後に、参加職員で実際の利用者者を例に挙げながら声の掛け方や対応方法の意見交換をしました。言葉の使い方は難しいですが、今後もスピーチロックのない支援を目指していきたいと思えます。

救急法研修

十一月十三日、甲府地区消防本部の職員の皆様に講師になっていただき、救急法の研修を行いました。利用者の方が一の時に役立てられるよう真剣に取り組んでいました。少人数のグループに分かれ、全員が人形を使って、食べ物による窒息の救急措置、胸骨圧迫と人工呼吸、AEDの操作を実際に行いました。



動きを真似てイメトレです



講師の話に全集中

鍼・マッサージで免疫力UP!

季節は冬へと向かい心身の不調も生じてきます。鍼やマッサージで血行を改善し、免疫力を高めましょう。料金は鍼・マッサージともに1時間で2,000円です。青い鳥ホームでお待ちしております! お問い合わせは☎055-252-8994(サカイ)まで。

新型コロナウイルス感染症予防の取り組み

- ①完全予約制(検温後に施術)
- ②1時間コースのみ
- ③利用者、職員は朝、夕に検温
- ④施術中もマスク着用
- ⑤定期的な換気、清掃



山梨青い鳥奉仕団が「文部科学大臣表彰」を受賞

このたび、長きにわたる点訳・音訳図書の作成、地元小中学校等での点字教室、盲学校や施設等での朗読のほか、視覚障害者の余暇活動に対する支援が認められ、「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受賞しました。

次号では詳しい内容をお伝えします。



第23回山梨県障害者文化展へ出展

令和2年11月3日から7日山梨県立図書館で開催された障害者文化展に、県内の障害者約1400人が個人やグループで制作した作品計861点を出品。絵画・書道・手芸・陶芸・文芸など感性豊かな作品が展示されました。青い鳥成人寮利用者の作品2点が入賞しました。おめでとうございます!



奨励賞を受賞した作品「花満開」(左)、「兄さんへ」(右)



山梨ライトハウス川柳会

山梨放送様から点字カレンダーのご寄贈

令和2年11月17日、日本テレビ小鳩文化事業団製作のカレンダー「点字版」300部が山梨放送ラジオ局長荒川様より山梨ライトハウス萩原理事長に贈られました。

今回のテーマは「音のある風景」で、「神磯の鳥居と波の音」や「タンチョウの鳴き声」などが掲載されています。



「音のある風景」がテーマの点字カレンダー



山梨放送ラジオ局長荒川様(左奥) ラジオライトハウス担当塩澤アナウンサー(左手前)

川柳 浅川和多留選

●ライトハウス川柳会
妹に 会えば心が ほつとする 相沢 幸雄

コロナの世 救ってください お月様 榎村 和美

懐メロの 涙を誘う あの台詞 細川 一

キノコ狩り やつと見つけた こぶしだけ 加藤 隆

オニヤンマ 翼貸してよ 大空へ 桑原 梅次

忘れたと 強がっている 古い傷 萩原 満治

栗ご飯 友から届き 舌鼓 藤野 ます子

祭り笛 安堵のための いちりづか 堀内 孝春

満月に 感謝しながら 挿すすき 岡部 恵子

五十肩 しばらく休む 右の腕 本間 りょう

●青い鳥老人ホーム川柳
木漏れ日が 作る明暗 自然の美 影山 笑美子

小さい頃 影絵遊びで 楽しんだ 三森 秋江

裏方は 影で主役を 支えてる 松木 鏡

屋根の下 雨を止むのを 待つばかり 佐野 武重

日本晴れ 茶摘み姿の 後ろ影 橘田 喜美江

独り言 影を追うけど いつ来るの 佐野 英夫